

【足立区地域自立支援協議会くらし部会】会議概要

会 議 名	平成30年度 第1回 【足立区地域自立支援協議会くらし部会】
事 務 局	福祉部 障がい福祉センター
開催年月日	平成30年8月29日（水）
開催時間	午後1時30分 ～ 午後3時30分
開催場所	障がい福祉センター 研修室3
出席者	別紙のとおり
欠席者	別紙のとおり
会議次第	1 次第 （1）障がい福祉センター所長挨拶 （2）委嘱状授与 （3）委員紹介 （4）事務局紹介 （5）足立区地域自立支援協議会の体制変更について 2 議事 （1）部会長挨拶 （2）協議（意見交換） （3）次回の会議開催日時確認 （4）その他 3 事務連絡
資 料	第1回くらし部会次第・席次 平成30年度 地域自立支援協議会本会議資料 アンケート結果及び補足資料 足立区障がい者計画 東京都障害者計画（抜粋）
そ の 他	

様式第2号（第3条関係）

（協議経過）

1 次第

（1）障がい福祉センター所長挨拶

○障がい福祉センター所長 自立支援協議会は今年度大幅に見直しを行った。6つの部会を設けたが、暮らし部会は話す内容が幅広くなっているため、こども部会に次ぐ委員の多い部会となっている。皆さんと闊達な議論を進め、障がい者の暮らし向上に努めて参りたい。

（2）委嘱状授与

障がい福祉センター所長から委員へ委嘱状授与。

（3）委員紹介

部会長及び委員より自己紹介

（4）事務局・オブザーバー紹介

（5）自立支援協議会の見直しについて

○事務局（地域生活支援担当係長）平成30年4月より自立支援協議会の体制を変更した。平成29年度までの専門部会はネットワークとして継続して各事務局が運営していく。今後、各専門部会で検討した事項については本会議に報告・情報共有を行う。協議会の議事を報告書にまとめ、協議会の事務局を所管する部長へ提出することとなる。また、協議会の会議は公開となり、議事録も区のホームページで公開する。

2 議事

（1）部会長挨拶

○酒井部会長 今回と次回の暮らし部会の意見をまとめ、本会議に提出することになっている。今日は資料として示した事前アンケートを抜粋して意見をまとめたものがあるので記載内容についてご意見をいただきたい。また、それぞれの取り組み内容について意見を発表ください。

（2）協議

【各委員からの現状報告及び意見交換】

○酒井部会長 生活介護事業を運営している。地域の中で暮らし続けるためには、地域での認知度がまだまだ足りないと感じている。同時に利用者の高齢化が進み、将来に向け生活の場の確保が必要となっている。今は親元で暮らしている方が多いが、グループホームや入所施設が足りていないと感じている。半面、サービス利用に繋げるにも、家族介護等が主流で、なかなか新しいサービスに繋がらない課題がある。

地域の課題と取組みたい内容について自由に話していただきたい。

○三浦委員 民生委員として活動している。今年初めて障がい部会に入り、施設見学などをして勉強している。障がいのある方に直接関わったことがないので勉強したい。

○山田委員 親の立場と、日中働いている職員の立場と両方からの意見を伝える。息子は23歳からグループホームに入り7年が過ぎた。早くからサービスを利用し慣れることができたが、先が長いと感じている。しっかりしているようで、30歳を越えると健康面などで困ったことや思ったことを伝えられないことがある。支援の形はあるが、サービス内容に無いものがまだあるので、お金で買える支援、買えない支援が含まれていて、もっと色々繋がると良いと思う。家庭的な雰囲気、本人が本人らしく居られる場はどこかと思うが、なかなか無い。

施設で保護者と話す中では、高齢になると食べ物も家族の中でしか食べていないなど経験値の少なさに気付くことがある。小さい時からの経験は大きい。

○高木委員 NPO法人で区内3か所のグループホームを民間のマンションを借りて

運営している。区分の重い方が多い。スプリンクラーは家主が設置している。ひと昔前は物件探しが難しかったが、今は不動産会社から紹介してくれる。入居希望者はいるが担い手不足で新規に増やせない状況である。

○池田委員 作業所では18歳から76歳の方が通っている。高齢化の問題があり、出来ていたことが出来なくなっている方もいるが、できる範囲でやっていただいている。親も高齢化し、親亡き後の問題が出ている。日中活動ができるグループホームの必要性と、グループホームになじまない方にはサテライトや個人の家でくらし続ける支援が必要と思われる。加齢の問題は猶予がなく、人材と制度と、支えていかれるネットワークの構築が急がれる。

○照井委員 足立区全体で医療ケアの充実が課題であり、入所施設、日中活動先含め、医療に特化した場所が必要と感じる。ショートステイの利用者からは、今の身体機能を維持したい希望が多く聞かれる。ADL（日常生活動作）の低下も早い方が多く、現状維持できる活動拠点を望んでいる。

居宅介護のニーズもあるが、担う人材が圧倒的に不足している。問い合わせ等にもお応えできないことが多々ある。人材確保の方法と、スムーズに移動できる手段の確保が課題である。もう少し担い手が柔軟に動ける仕組みができると、障がいのある方の生活も変わってくると思われる。

○高橋委員 基幹地域包括支援センターでは区からの委託事業で福祉サービスの苦情相談を受け付けている。最近の相談者の傾向として、高齢者の苦情は親族からが多いが、障がい者の苦情は本人からが多い。あくまで個人的な意見だが、障がい者の苦情の底辺には、孤独感があると感じる時がある。地域でくらし続

けるためには、精神的なサポートも必要と考える。

○芝委員 計画相談で家族や本人と話すと、若い方でも先の話としてグループホームと言う方が多い。見学などをすすめているがどんな生活かイメージできない方も多いため、体験できる場があると良い。また、家族が病気になり、生活の場を急いで探す必要があるときは、遠方の施設入所になることが多い。重度の方は家族がみていることが多く、グループホームで対応できない。どうしたら良いかという相談が多い。若い方からは休日過ごせる場の希望をよく聞く。

○三瓶委員 長年施設入所支援に携わっている。東京都等から施設入所者を減らし地域移行を推進するよう言われるが、難しさを感じている。課題の一つは、地域移行後の生活全般を支える事業所や人手が足りないこと。各々の立場でできることを少しずつ行うことが必要と考える。数年前、車いす利用の方が地域移行するための住まいを探したが、改修なしで住めるアパートがまずない。バリアフリー、合理的配慮をもっと推進していかなくてはいけないと考える。

○石井委員 介護保険と障がいサービスを併用している方がいる。行動援護などの外出支援を担っているが、やはり人材が不足している。住環境も様々な中、入浴介助など腰痛予防で二人対応が必要な場合もあり、ヘルパーの確保が大変な状況がある。通所バスへの送迎も時間帯が重なり利用が集中するため調整が難しい。反面、日中は通所があるので空いている。土日に働いているヘルパーは少なく対応しきれない現状がある。

○青代委員 医療ケアの必要な方を受けてきている。日中できるケアをどうするかが課題である。本人の体の変化だけでなく、ご家族の変化で、本人の今後をどうしようか、

という問題が出てきている。長くくらししていくためには施設整備や障がい者への支援ができる仕組みなどが進んでいくと良いと思う。

○伊藤委員 長い在宅生活後に利用を開始する方は、家族も本人も高齢であり、身体的問題が出ていることがある。施設は4階で、通常はエレベータ利用だが、災害時の避難対策も課題である。グループホームに移行を希望しても、施設になじめず家族からも了解が得られない場合があり、本人の自己決定をどう支えるかも課題となっている。

○鈴木委員 身体に障がいのある子の親は、うちの子を任せて大丈夫だろうかと考え、親が支援できる間はできる限り家で頑張ろうと思う方が多い。若い親の方が、サービスを利用してきていたりする。男性ヘルパーが少なく、居宅サービスや週末の移動支援など取り合いになっている。子どもの身体的機能の低下だけでなく親自身も体力や機能が低下し、介護できなくなることを自覚しなければならない。家庭で頑張らず、お子さんの障がいについて理解をしてもらうためにも、サービスの利用を勧めていかななくてはならないと思う。

障がいがあるということで、医師も怖がってしまい、普段だけでなく緊急時などなかなか診てくれない。区外の大学病院など通院している方も多い。こうした医療面・在宅訪問診療などの体制も高齢者だけでなく障がい者でもできると良い。

また、近年、地震だけでなく水害も多く発生している。身体障がい児者を連れて「いつ・どこへ避難すればよいのか？」悩んでしまう。平時のうちから家族間で話し合い、確認するよう会員には伝えている。

区内には医療的ケアを含む重度障がい児者が利用できるショートステイはなく、区

外の遠い所を利用している方が多い。今後区内にも医療的ケアの必要な方を含む重度障がい児者の方も利用できる短期入所やグループホームができることを願う。

身体障がい児者の場合、外出や外泊の機会が少ない。グループホームの空き室等で宿泊体験するなど、環境の違う所で寝たり、食事したりする経験が必要だと思っている。

○酒井部会長 今の委員の皆様からの話を踏まえ、資料2アンケート結果抜粋をご覧ください。人材不足については複数の意見が出ているが、課題として報告して良いか。

○宮田委員 よろしいかと思う。

○酒井部会長 資料2読み上げ 資源・取り組みについての追加意見はあるか。

○鈴木委員 移動支援のサービスの広がりが見たい。身体障がいのある子がいる家庭は、リフト付きの車を持っていることが多い。定年を迎えた家族が送迎サービスを手伝えたら良いという声が聞かれる。ヘルパーの資格がないと難しいか。

○オブザーバー（東部援護係長） 移動支援サービスか、有償ボランティアとなるのか。イメージとしては、資格をとって移送を行うということか。

○鈴木委員 イメージ的には、家から施設の送迎等かと思うが。

○オブザーバー（東部援護係長） 区内の通所バスについてはどのようになっているか。

○事務局（社会リハビリテーション係長） 通所バスは、福祉ではなく国土交通省の管轄で旅客業法に基づくところもあると聞いている。

○鈴木委員 あいのわ福祉会の送迎手伝いはいかがか。

○酒井部会長 以前法人で有償の移送サービスを検討したが、許認可等厳しく進んでいない。雇用契約は制約もあるが、委託や請

負などでやれるらしい。行政と相談できると良い。

○池田委員 防災について。自閉の方の中には慣れない避難所で過ごすことが難しい方がいるため、うちの施設を第二次避難所に指定できないか災害対策課に相談したことがある。慣れていない場なら災害時も安心して過ごせるため、避難所の指定をして欲しいと申請している。水害の避難については、いどこへと避難するのなかなか難しいと思う。江東5区で話し合ったので見てくださと言われてたが具体的に区からできる事できない事を言ってもらえると良い。グループホームで、夜間世話人が一人のときに災害が起きて避難は難しい。

○酒井部会長 第二次避難所は災害対策課で指定している。法人の施設4か所は申請後すぐに指定されている。

○宮田委員 広さなど基準があると思われる。

○池田委員 小さい施設でも複数あれば避難場所が増えると考えます。

○酒井部会長 第二次避難所の場所などの情報は発信されているのか。

○宮田委員 防災マップに記載がある。

○酒井部会長 障がい者の方にはわかりにくいこともある。

○鈴木委員 障がい者施設がある場所は地域により偏っているので近くに無い場合もある。

○酒井部会長 通い慣れているところが2次避難所になると良いと思うが、区の職員も人数に限りがあるので難しい面もある。

他に意見は。

○山田委員 知的の親からトワイライトサービスの要望が出ている。将来の生活について、ショートステイ、グループホームと段階はあるが、本人に希望を聞いてもイメー

ジができない。自費のサービスで、通所施設に迎えが行き、借り上げマンションで過ごし、普段の生活を家庭から聞いて、スタイルをくずさず、入浴食事をして送り出すサービスに人気がある。

経験を通し、本人が力をつけ自分から希望を発信できるようになると、ショートステイ、グループホームへと繋がっていくと考える。こうした家庭的なサービスがあると良い。

○酒井部会長 今後政策的にこのような取り組みはありえるか。

○事務局(東部援護係長) 他の区ではあると思う。今の法制度でどう合わせるか。ニーズはあるということで報告して良いと思う。放課後デイサービスでは送迎もあり夕方の過ごし方もいろいろあったと思う。

○芝委員 施設の送迎だけだと早い方は2時半に家に帰ってくるという声は良く聞く。

○山田委員 親が高齢になると送迎や入浴なども大変になり、週1回でも本人が楽しんで泊まれるところがあると良い。

○芝委員 夕方のデイサービスは、体験の場、夕方を過ごす場としてあっても良いと思う。

○酒井部会長 放課後デイサービスや通所日中系施設とは仕組みの違いがある。また、人手不足で事業所を増やすことは厳しいところはあがるが夕方のデイサービスは良いと思う。

医療ケアについて、具体的な事業所で医療ケアの拡大を求めるのか、地域での訪問診療体制などを拡充していくか。どちらになるか。

○三瓶委員 利用者の加齢、重度化に対し何らかの対策を考えていかなければならない。医療は施設が、地域、行政から求められる機能の一つと考える。国は(医療行為等の)

資格さえ取れば安心してできるようになったというが、資格を取ることがどれ程大変かということもある。施設の対応はもちろん大切だが、限界もあるので、地域側双方の取り組みが必要と思う。

○青代委員 谷在家福祉園は、現在の利用者の状態の変化に合わせて対応している状況にある。今後を考えたい。

○酒井部会長 障がいのある方は診療科目によるが、区内の医療機関に通う方は少なく、遠い病院に通院しているイメージがある。

他にテーマに対しての意見がなければ、本日の意見とアンケート結果をまとめ、資料を作り事前に配布するので、次回までに具体的な内容を考えていただきたい。

(3) 次回の会議開催日時確認

○事務局（社会リハビリテーション係）

次回の開催日時については11月で調整予定。決まり次第連絡する。